

Product Value Maximization for Patient (PVM) フォーカスグループ(FG)の活動紹介

従来の単なる企業のLCM製剤開発ではなく、患者さんのための製品価値最大化(Product Value Maximization for Patient)を目的に、企業研究開発者を中心に2013年に発足し、2014年から小児製剤にフォーカスして各研究機関(新薬メーカー、ジェネリックメーカー、アカデミア等)が連携して、研究会などを通して小児製剤の現状課題の啓蒙を行ってきた。

2015年度は製剤技術を駆使した小児指向性の高い製剤開発の可能性検討(ワーキングチーム)および情報共有の活動(研究会開催など)も行う予定である。

当FGの特徴として、3ページ目のイメージ図のように患者さんを中心にした包括的医産学官による医療ニーズの適正な情報収集と発信だけでなく、医療現場や保護者の方とも直接お話しできる活動を目指しています。

FGのミッションステートメント

くすりはメーカーだけものではなく、社会の宝でもあり、すべての患者さんがくすりの恩恵を受容できるあるべき姿を共有し、

○患者さんのためにくすりの価値を最大化するために、
現状課題とニーズを適正に整理し、発信する

○未充足のニーズがある場合(小児製剤など)は、
包括的医産学官連携による解決方向性を示す

2015年度執行部:リーダー(金淳二:小野薬品)、サブリーダー(原田努:バイオジェンアイデック)
会計(安部和也:小野薬品)、広報(牟田信:エーザイ)、幹事(保地毅彦:アステラス)、実行委員
(徳永:沢井製薬、辻本:エーザイ、花輪:東京理大)、アドバイザー(医産学官分野から)

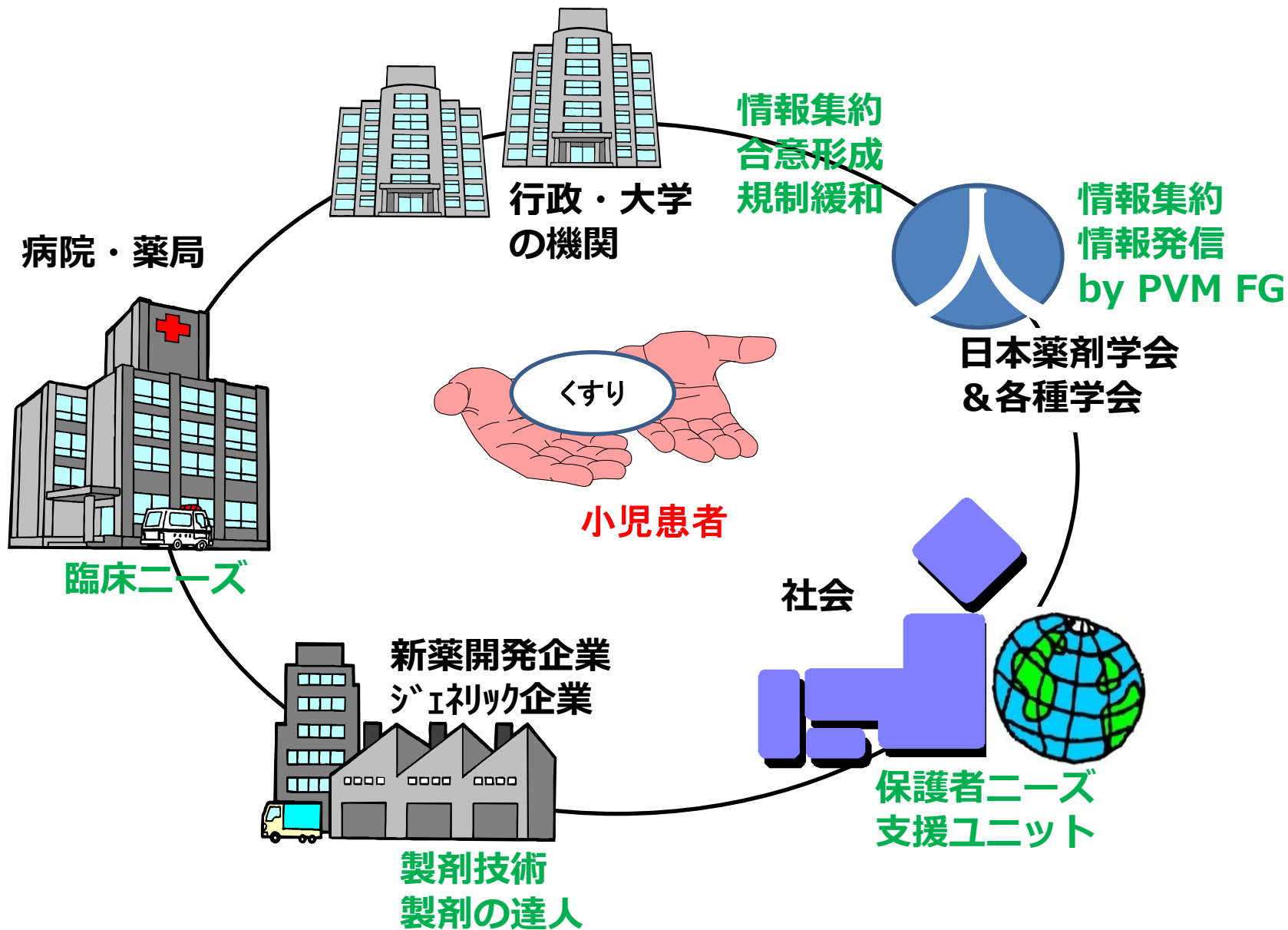


図1. 医産官学の包括的連携による患者さんのためのくすり価値共有のイメージ図